

下肢静脈エコーの基本と 実践テクニック

foreword

下肢静脈エコー検査は、日常診療において深部静脈血栓症（DVT）や下肢静脈瘤の診断・評価に不可欠な役割を担っていますが、読者の方々からは「下肢静脈の追従が苦手」「描出のコツを知りたい」「評価やレポート作成について詳しく知りたい」「自分の手技が正しいのか不安」といった、幅広い要望やお悩みが寄せられています。

そこで、本特集ではこのようなお声にお応えすべく、基本となる解剖や走査・描出テクニックから、DVT・下肢静脈瘤それぞれの診断・治療、さらには検査の進め方やレポート作成のポイントについてお届けいたします。

下肢静脈エコー検査への理解促進と、手技向上にお役立ていただければ幸いです。
(編集部)

-
1. まずはここから！下肢静脈の解剖をおさえよう
 2. “血管が追えない”を解決する描出テクニック
 3. 深部静脈血栓症（DVT）
 - 1) 検査に臨むうえで知っておきたい診断と治療—経過観察も含めて
 - 2) 超音波検査の進め方，レポート作成の肝
 4. 下肢静脈瘤
 - 1) 検査に臨むうえで知っておきたい診断と治療—経過観察も含めて
 - 2) 超音波検査の進め方，レポート作成の肝

🔗同時掲載コーナー “特集とあわせて読みたい”

『2025 年改訂版 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症および肺高血圧症に関するガイドライン』のおもな変更点 (p.343～)
